

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「喜びも悲しみも」

— 嬉しい二つのこと —

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

先日、管区事務所宛にとっても嬉しいお手紙をいただきました。それは、2日前に洗礼・堅信の恵みに与った喜びを伝えてくださる手紙でした。60年前に幼稚園のバス旅行で訪問した教会が印象深く、ふと教会を訪ねてみたのがきっかけだそうです。ハンセン病のことにも関心があり、不思議なつながりを感じながら通っておられるとのことでした。「いのちの履歴」と『おいで子どもたち』がプレゼントされ、帰りの電車で読んで感動し目頭が熱くなると、記されていました（お手紙をくださった方には勝手に内容を公表して申し訳ございません）。丁寧な牧会の賜物だと感じ、この感動と喜びをみなさまにも分かち合いたいと思い紹介させていただきました。

「みんな ひとりでは悲しみに耐えられなくて そして喜びをだれかに伝えたくて いっしょに悲しみ いっしょに飲んでくれる方を求め … 顔をあらって、歯をみがいて、すこしおしゃれをして（『おいで子どもたち』2016年管区事務所発行より）。コロナ危機の中、葬儀に参列できずに逝去された先輩方のお顔、日曜日に教会に集えず孤独を感じられているであろう方々のお顔を思い浮かべながら、礼拝に出席するときのウキウキ・ワクワクとした緊張感が、キリスト者の大きな喜びであることを改めて思わされました。

もう一つ、嬉しいお知らせです。『おいで子どもたち』を韓国語に翻訳してくださった方がおられ、著者の斎藤惇夫さんと写真家の田中雅之さんのご理解とヒルダ・ミッシェル宣教資金の援助を受けて、近く私費で発刊（初版は非売品）の予定です。先ずは、大韓聖公会の子どもたち、日本で暮らす韓国語を話す子どもたちにお届けさせていただきます。礼拝委員会が中心となり、初めて陪餐する子どもたちに向けたメッセージ絵本が大人も子どもも「キリストのからだと血であるパンとぶどう酒をいただいて、わたしたちのうちにキリストがいてくださることを、心と体で感じ、味わうことができる…このパンとぶどう酒は、ご自分をささげてくださいましたキリストからの、何よりの愛の贈り物です。」（同書、「子どもたちへの手紙」礼拝委員会より）という喜びをたくさん受け取り、隣人に仕える者とし

□会議・プログラム等予定

（2021年7月25日以降・前回未掲載分）

7月

- 1日（木）祈禱書改正委員会〔Web〕
- 5日（月）宣教協議会実行委員会〔Web〕
- 9日（金）法憲法規委員会〔Web・8日から変更〕
- 28日（水）「セーフ・チャーチ・ガイドライン」に関する打ち合わせ〔Web〕

8月

- 1日（日）青年委員会〔Web〕
- 4日（水）正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
- 5日（木）財政主査会〔+Web〕
- 6日（金）常議員会〔Web〕
- 9日（月）ハラスメント防止・対策担当者会議〔Web〕
- 17日（火）新任「人権」研修会〔Web〕
- 19日（木）宣教協議会実行委員会〔Web〕
- 24日（火）聖公会関係学校代表者協議会・事務局連絡会、同研修会〔Web〕
- 26日（木）人権問題担当者会〔Web〕
- 28日（土）拡大青年担当者の集い〔Web〕

9月

- 2日（木）セーフ・チャーチ・ワーキンググループ会議〔Web〕
- 7日（火）～9日（木）管区共通聖職試験〔各教区〕
- 8日（水）・9日（木）人権セミナー〔北海道教区担当・Web〕
- 9日（木）聖公会・ルーテル教会協議会〔Web〕
- 9日（木）・10日（金）各教区宣教担当者の集い〔Web〕
- 17日（金）年金委員会〔Web〕
- 28日（火）管区共通聖職試験委員会〔Web〕

<関係諸団体会議・他>

- 7月27日（火）ACTジャパンフォーラム運営委員会〔Web〕

★管区事務所夏期休業

8月10日（火）～16日（月）までの間、夏期休業いたします。よろしく願いいたします。緊急の場合は総主事まで。

（次頁へ続く）

て遣わされていきたいと思ひます。

災害や政情不安、感染症の不安の中にある方々、天に召された方々に、神さまの慰めと癒し、導きと祝福が豊かにありますように。

「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」
(ローマ12:15、聖書協会共同訳)



□各教区

横浜

- ・2021年度 教区「平和宣教月間」(8/1～8/31)
8月の平和宣教月間のポスターとアンケート用紙を送付いたします。平和宣教月間を通して平和についてお覚えください。
- ・「寿町の活動の現状について」講演会 7月17日(土) 14時～16時 Zoomにて開催。
日雇い生活者の街として知られる横浜市寿町で支援活動をされている三森妃佐子師(日本基督教団牧師、寿地区センター副主事)の講演会

京都

- ・第61回信徒の集い オンラインで会いましょう
9月19日(日) 13時半～16時半予定 開催方法:Zoom テーマ:「神はわたしたちの避けどころ」講師:桑野亜佐子さん(防災士)「教会と災害ー巨大地震への備えー」

神戸

- ・2021年の広島平和行事は、県外参加者による新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神戸教区の行事としての開催はいたしません。8月6日に被爆76年を迎える広島の様子は、神戸教区HP、広島復活教会 SNSを通して、日本聖公会の兄弟姉妹の皆様にお伝えできますよう、現在、準備・検討中です。

九州

- ・長崎原爆記念礼拝(聖餐式) 8月9日(月・休) 10時半 長崎聖三一教会 テーマ:死の同心円から平和の同心円へ 司式:主教 武藤謙一 説教:司祭 柴本孝夫

(前頁より)

8月9日(月) NCC 役員会 [Web]
17日(火)・18日(水) E-net 協議会・総会 [Web]
9月4日(土) 障関連プログラム [Web]
6日(月) <移住民>国際シンポジウム [Web]
24日(金) NCC 委員長会議 [Web]
24日(金) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]
28日(火) ACT ジャパンフォーラム運営委員会 [Web]

※新型コロナウイルス対策のため、管区事務所はしばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤(平日 月・水・金は10:00-16:30 出勤、火・木は在宅勤務)を実施します。在宅勤務でもメールの送受信は可能です。

□主事会議

第65(定期) 総会後第4回 2021年7月1日(木)

<主な報告・協議>

1. 2020年度一般会計決算案一部修正(歳入超過の処理)について承認し、常議員会に諮ることとした。
2. 聖公会センターの契約更新(2021年11月)について、現状を確認し意見を交換した。
3. ミャンマー聖公会マンダレー教区における避難民支援(エキュメニカルな働き)について、30万円の支援を承認し、送金方法について検討することとした。

次回会議:10月7日(木)

□常議員会

第65(定期) 総会期第7回 2021年7月6日(火)

<主な決議事項>

1. 2020年度一般会計決算案一部修正(COVID-19の影響による歳入超過の処理)に関して、財政主事から説明を受け、承認した。
2. 聖公会センターの契約更新(2021年11月)に関して、契約内容を確認し意見を交換した。

次回以降会議:8月6日(金)、10月25日(月)、12月3日(金)

2021年日本聖公会 人権セミナーのご案内

今年の人権セミナーでは、北海道での人権の課題のひとつとして「核のゴミ」処分に関わる、北海道天塩郡(てしおぐん)幌延町(ほろのべちょう)・豊富町(とよとみちょう)での取り組みについて一緒に学びたいと思います。「原発のない世界」の実現のためには、核のゴミを処分する施設が必要なのは仕方のないことかもしれません。しかしその施設の永続性や危険性について十分な説明や合意もないまま、「国策」として「弱い立場の地域」に大きな危険を一方的に押し付けているようなことが許されるのでしょうか。

- ・2021年9月8日(水)～9日(木) 参加費：無料(今回のプログラムは全て、オンラインで行なわれます。) 担当：北海道教区

***1日目 会場：エベコロベツ自給のむら**
開会礼拝、サロベツ湿原センター見学、エベコロベツ自給のむら見学、講演/久世薫嗣氏

***2日目 会場：稚内聖公会**
朝の祈り、幌延深地層研究センター見学、講演/尾崎敏明氏、み言葉の礼拝
参加締切：8月23日(月) 正午まで

お申込みの方はZoomを使用できる環境をご用意の上、下記申込方法AからCのいずれかの方法でお申し込みください。

○申込方法A Google フォームで申し込む
下記QRコードを読み取り、申込みフォームの必要事項をご入力ください。

○申込方法B Eメールで申し込む
申込用紙記入事項を、宛先・担当者Eメールアドレス宛にお送りください。

※記入事項のEメールアドレスはZoomでお使いになるものをお知らせください。

○申込方法C 郵送またはFAXで申し込む
申込書に必要事項をご記入の上、宛先・担当者住所またはFAX番号までお送りください。
宛先・担当者：2021年日本聖公会人権セミナー実行委員長 司祭 上平 更

Eメール：nssk.hokkaido.jinken@gmail.com
住所：〒004-0002
北海道札幌市厚別区厚別東2条5丁目14-1
電話・FAX：011-898-5999



QRコード

《人事》

東北

司祭 ピリボ越山健蔵(退) 2021年9月30日付 仙台基督教会における囑託の任を解く。
磯山聖ヨハネ教会ならびに室根聖ナタナエル教会における礼拝協力の任を解く。

横浜

司祭 アンドリュー デンジャーフィールド 2021年6月1日付 ミッション・トゥ・シーフェアラーズ横浜のチャプレンとして認可する。(任期2025年5月31日迄)

京都

司祭 パウラ麓 敦子 2021年8月1日付 願いによって復職を許可する。
主教座聖堂付とする。
京都聖ヨハネ教会での礼拝協力を命じる。

<信徒奉事者認可>

上野聖ヨハネ教会 2021年7月1日付 (任期1年)
ルカ木村直史

管区事務所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2021年8月15日

主にある兄弟姉妹の皆様へ

日本聖公会首座主教 主教 ルカ 武藤 謙一
正義と平和委員会 委員長 主教 ダビデ 上原 榮正

8.15 平和メッセージ

主の平和が皆さまと共にありますように。

2021年8月15日、わたしたちは76回目の終戦記念日を迎えます。戦前、日本は、1931年9月、軍部が起こした南満州鉄道爆破、いわゆる柳条湖事件を契機に中国で戦争を始め、1937年に日中戦争へと突入し、太平洋戦争が終結する1945年8月まで約15年に亘る長い戦争を経験しました。

戦争では、アジア・太平洋地域で2200万人以上、日本人300万人以上の人々が犠牲となり尊い命を失いました。明治以降日本は、天皇を中心とした「大東亜共栄圏」や「八紘一宇」の思想のもと、アジア諸国を侵略し、帝国主義の道を行きました。多くの犠牲者を出し、今も人々に痛みと悲しみを与えている日本の罪は決して小さいものではありません。アジア・太平洋諸国の人々に多大な犠牲と被害を与えた反省の上に、戦後の日本は平和を第一に掲げ、民主主義、基本的人権と自由を中心とした憲法を作り、憲法9条では戦争放棄を謳い、平和を遵守してきました。

日本には大切な日が4つあります。6月23日・沖縄慰霊の日、8月6日・広島原爆の日、8月9日・長崎原爆の日、そして8月15日・終戦記念日です。これらの日には、戦争犠牲者の魂の平安を祈り、戦争の悲惨さ悲しみが伝えられ、平和を祈願してきました。

しかし、戦後76年、戦争体験者が少なくなった今、記憶の風化が起きています。若者たちには戦争は遠い過去の出来事になり、平和に対する考えや思いも変化しつつあります。現在の日本は、隣国との間に領土問題や歴史認識で課題を抱えており、その中で、自国防衛の名のもとに軍備強化がなされています。先の国会では「国民投票法」が改定され、3年後には憲法改定が可能になりました。このままでは憲法9条が改定され、再び戦争の渦の中に巻き込まれそうです。

私たちはキリストの平和の使者です。主は、誰かの家を訪ねたなら、最初に「**平安があるように**」と祈ることを教えました。また、「**敵を愛するように**」と命じられました。これらのみ言葉は、神さまに似せて造られた人間が、全ての人と「**平和**」に生きることが神さまのみ旨であることを示しています。

日本聖公会は、1995年の宣教協議会以来、「わたしたちを平和の器にしてください」と祈ってきました。平和は、私たちの心の中から始まります。それは、国家、民族、人種、国語、歴史、文化を超えて、差別や偏見を克服し、特に貧しい人、小さくされている人、弱い人、すべての人々と平和に歩む、祈りです。平和への歩みは、それがどんなに小さくても、そこにこそ神の御国が実現していくものであると信じます。

世界に目を向ければミャンマー、パレスチナなど暴力や紛争に苦しむ人びとが多くおられます。今年もまた世界の平和を祈り、平和の器として歩む想いを新たにいたしましょう。

キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。

この平和のために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。 (コロサイ3:15、聖書協会共同訳)

主に在りて。

特集 2021年・沖縄週間／沖縄の旅**2021年沖縄週間／沖縄の旅 Web プログラム報告****正義と平和委員会・沖縄プロジェクト****司祭 サムエル 小林祐二**

長期化するコロナ禍にあります。本年も日本聖公会の諸教区・諸教会の皆さまと沖縄週間を過ごすことができましたことを感謝いたします。

沖縄プロジェクトでは昨年引き続き沖縄週間／沖縄の旅をオンラインで行なうこととしましたので、その様子をご報告いたします。

すでにお知らせしたとおり、オンライン会議システムのZoomを用い、2夜に渡ってのプログラムを計画しました。参加申込日を過ぎても多くの方からご相談をいただき、前回同様に日本聖公会の全教区、また他教派、海外からの申し込みもあり、最終的な申し込み口数は81となりました。

1夜目の6月22日(火)は、YouTube 沖縄県公式チャンネルから視聴できる「戦争体験証言集」から、「青酸カリの注射を命じられる～東風平(こちんだ)の野戦病院での体験～(譜久山ハルさん、白梅学徒隊・当時17歳)、「攻撃を受けた人びとの惨状」(城間康夫さん、当時16歳)のふたつの証言(2013年公開)をZoomの画面共有機能を用いて一同で視聴しました。

沖縄戦の組織的戦闘が終わったとされる1945年6月23日から76年目にあたり、直接の証言を聴くことはますます難しくなりました。また沖縄タイムスとヤフーの共同アンケートでは、全国からの回答者2,000人のうち75.5%が「慰霊の日」を知らなかったと回答したそうです(<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/774415>)。そのような現在において、YouTube上の動画であったにせよ貴重な証言として響いたのではないかと思います。

その後はブレイクアウトルーム機能で10のグ

ループに分かれてディスカッションの時間をもち、感想等を分かち合いました。時間の都合でグループのまとめを全体で分かち合うことはできませんでしたが、沖縄戦による犠牲者、特に学徒たちの痛みを憶えつつ、就寝前の祈りをささげてプログラムを終えました。

2夜目は沖縄からの生きた声を届けるべく、沖縄教区スタッフ2名が生活のなかで感じてきた証言を行ないました。今までスタッフ同士でもなかなか言葉化される機会がなかった思いは、私自身の心にも響くものがありました。前夜同様グループディスカッションを行ないましたが、語り尽くせぬ思いを祈りに込めて就寝前の祈りをささげ、終了となりました。

両晩とも、プログラム終了後もミーティングルームをすぐに終了とはせず、スタッフは打合せのため一旦ブレイクアウトしたものの、打合せを終えても歓談は続いており、旧交を温めたり思いを語り学びあう場が30分、1時間と続いていました。

2夜目の終了時に呼びかけたアンケートには多くの方がご感想を残してくださいました。終了後のプロジェクト会議がまだ開催されていないため私見になりますが、アンケート結果をふまえて反省点や今後の方向性を記しておきます。

最大の反省点は、グループディスカッションの時間が足りなかったことです。平日夜、またオンラインでの開催であることを考慮して90分×2夜のプログラムとしました。オンライン特有のぎこちなさやブレイクアウト機能の経験不足も影響し

たかと思いますが、証言に対するアウトプットの時間が足らず、あと30分あればミーティングもより充実したのではないかと思います。また、進行シナリオを事前にスタッフ間でもう少し煮詰めておくべきでした。コロナ禍でのプロジェクト運営はもちろんオンラインだけになり、新たなスタッフも含め、沖縄の地で一堂に会することができないまま過ぎてきました。この度のWebプログラムの反省をプロジェクトの一年のふりかえりと位置付け、今後さらに歩みを模索したいと思いません。

沖縄の海や花を見て癒されるのはわたしだけではないと思います。しかし、ニュースやドキュメンタリーに耳を傾けると、かつてその「海が血に染まり」（聖歌423）、野山に揺れる花の下にも未だに不発弾や犠牲者の遺骨が眠っているという現実を知らされ、「沖縄の戦争はまだ終わっていない」という言葉が響いてきます。沖縄を知れば知るほど、刻まれた傷が今も傷み続けていることに気づくことでしょう。決して遠くの昔のことではないのです。「主の平和」とあいさつを交わす全ての兄弟姉妹が、「無関心に気づく」機会を得て歩み続けることができますように。

「2021年沖縄週間／沖縄の旅」にリモート参加して

特集 2021年・沖縄週間／沖縄の旅

鹿児島復活教会信徒 バルナバ 森田誠也

「沖縄週間／沖縄の旅」には、沖縄の隣の鹿児島にある私の教会からもこれまで何人かが参加し、写真とともにその体験談を聴いてきました。東京から単身赴任をしている私は、こちらにいううちに是非参加をと思うのですが、なかなか実現しないうちに、昨年来のコロナ禍で実地での開催ができなくなりました。そのような中、今年には2日間、1日90分のオンラインプログラムを行なうと知り、オンラインならば参加できるかもと、気軽な気持ちで申し込みました。

1日目は『沖縄平和学習アーカイブ』から、お二人の沖縄戦の証言を聴きました。体験者ご本人から戦争の悲惨さ、残酷さを直接に聴き、強いショックを受けました。証言の後はいくつかの小グループに分かれ、グループシェアリングを行いました。オンラインの場合、どのようにして小グループに分かれることができるのだろうと思っていましたが、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、10人程度ずつ小グループに手際よく分けた

れてゆく驚きのうちに、それぞれのグループで互いに意見・感想を分かち合いました。

2日目は沖縄教区の皆さんから、それぞれの現地の状況をお聞きしました。お話の中で出てくる場所がどこにあるかを地図で確認し、嘉手納基地、普天間基地の沖縄本島に占める広さに改めて驚きながら、爆音といつ戦争に巻き込まれるかもしれない不安に常に悩まされる日常に心を痛めました。この日も後半にグループシェアリングがあり、グループでは更に詳しいお話を聴き、語り合い、学びを深めました。

各日の最後には「沖縄週間の祈り」と「就寝前の祈り」を参加者皆さんでお捧げし、お互いに遠く離れていても「1つの教会」であることを実感しました。

全体を通じて、お互いなかなか自由にお話することができないもどかしさもありましたが、普段はお会いできない様々な教区、教会の皆さん

ん、海外から参加者の方々、お懐かしい方々と共に集え、豊かな学びの時間を過ごすことができました。Zoomのような便利な方法があったからこそ実現したリモート・プログラムは、少々物足りなさも感じましたが、地理的、時間的な制約なく、国内外の各ご自宅から、小さなお子さんのいるご家族で、各教会に何人かが集って、移動中

の車の中から、と様々な形態での参加が可能なので、大きな可能性が感じられました。今回一緒にさせていただいた皆さん、とりわけこの企画に携わられた皆さんに感謝いたします。コロナ禍が早く終わり、現地でのプログラムの再開ができることを心待ちにし、お祈りいたします。

2021年沖縄週間沖縄プログラムに 海外から参加して思うこと

特集 2021年・沖縄週間／沖縄の旅

米国聖公会ニューヨーク教区聖ヨハネ大聖堂内聖救世主会衆信徒
メトロポリタンジャパニーズミニストリー理事・ニューヨーク市立大学教授
マリア 遠山バルア・京子

この度の沖縄週間のプログラムには、偶然に情報をニューヨークの教会関係の方から頂き初めて参加させて頂きました。アメリカでの生活が長いとはいえ、日本聖公会育ちで、北海道出身の母方の叔父が沖縄戦で戦死しているということ、しかも自分自身沖縄生まれという私にとっては、沖縄のタイトルがついたイベント、プログラムは血が騒ぎ、今回こうして遠方から参加できたことをとても嬉しく思います。二日間、盛沢山のプログラムで、沖縄の暗い歴史を再確認すると同時に、基地問題を通して沖縄が実際は未だにアメリカの支配下にいるという現状を悲痛に感じながら聞いておりました。第一日目の沖縄戦の傷跡を綴った凄まじい映像を目にした時は、もう75年以上も前のこととは言え、会ったことも無い叔父のことが脳裏をよぎり、3年前にやっと叔父の名前を平和の礎で確認した時の感激も思い出されました。それと同時に、この歴史を忘れてはいけなく、二度と同じことを繰り返してはいけなくという気持ちがこみあげてきました。両日あった少人数でのブレイクアウトのグループでは、過去、現在の沖縄を知る中で、今の時代に生きる

我々が将来を念頭に入れて何ができるか、を一人ずつ分かちあう時間がもてたことは、個人レベルでの皆さんの沖縄との関係、そしてそれぞれの今後の沖縄との関わりを話すうえで、とても意義のある時間でした。

私は浜っ子と道産子の両親を持ちながら、父がアメリカ人の宣教師と共に開拓伝道をするために横浜教区から派遣された沖縄のコザ市（現在の沖縄市）で返還前に生まれました。生後三か月で本土に戻ったので、私は全く沖縄のことは覚えておりません。それでも、どこに行くにも出生地はつきまといます。特にアメリカでは出生地がとても重要で、全く記憶も無く、うちなんちゅうの血が入っていないやまとんちゅうの私にとって、沖縄という場所がいつの日か心の中では非公式にふるさととなっていました。ですから二日目の沖縄教区の並里さんが同じコザ生まれということをお聞きした時、私は本土で育ったとは言え、勝手ながら、同じ故郷を持った同胞という気持ちで興味深く聴き入っておりました。

二日目の冒頭に上原成和司祭がおっしゃった三つのリマインダーが今回のセミナーで大切な学びだと感じました。それはアモス書から学ぶ「無関心に気づくこと」、「沖縄に限らず命の意味を振り返ること」、そして「行動に移していくこと」、の大切さです。一人一人が知らなかったことを知ること、またその機会を作り、参加することで、人間は今まで開いていなかった目が開き、新しい気づきを持ちます。この「沖縄の旅」に参加したことによって、新しい気づきがあり、それを自分だけの知識としてしまっておくのではなく、別の人に話し、語り部となっていくことも

私達にできることではないでしょうか。また、沖縄の地を訪れ、観光だけでなく、地元のおじいちゃんおばあちゃんの話聞く機会を探し、またお話に出てきた辺野古に今でも座り込みをしているおじい、おばあと一緒に寄り添う、ということもできるでしょう。「人により治い」「権利に対する憤りをもつ」ということを生涯なされたイエス様のことを覚えると共に、キリスト者として、また教会が何をしていくべきかという問いかけを頂いた感慨深い二日間でした。今回のプログラムの準備をしてくださった皆さまに感謝申し上げます。

主教会からの文書、および

女性の聖職位に関わる委員会について



管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

司祭按手の要件から「男性」が削除されてから20年目の2018年、日本聖公会第64(定期)総会において1998年の第51(定期)総会で定められた「女性司祭の実現に伴うガイドライン」を廃止し、「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」(管区事務所HP資料ページに掲載)が新たに定められ、「女性の聖職位に関わる委員会」が設置されました。

同委員会では、「すべての人は、神の似姿として命を与えられたかけがえのない存在です。その一人ひとりの尊厳は、誰からも侵害されたり傷つけられたりすることがあってはなりません。日本聖公会は、人の尊厳を侵害したり傷つけたりするあらゆるハラスメントを許さず、その防止に取り組むことを宣言します。」とした「日本聖公会ハラスメント防止宣言(2012年日本聖公会第59(定期)総会決議)」を確認し、「日本聖公会における女性の聖職位に関する諸問題解決のための指針」「女性の聖職位に関わる委員会規程」「女性の聖職位に関する諸問題相談窓口規程」「女性の

聖職位に関する諸問題調査チーム規程」を整えています。

そして同委員会の任務は、①女性の聖職位に関する諸問題の相談や申し立てを受け付ける相談窓口を設置する。②問題の事実関係を調査するため、必要に応じて、調査チームを設置する。③相談や申し立てへの対応を調査チームの報告に基づき、また必要に応じて日本聖公会以外の他の諸機関と協力し、要望の把握、調査報告の審議、対応案の作成などを行う。④ガイドラインの運用と見直しなどの協議を行う。⑤その他必要事項の協議などを行う。となっています。

今回、横浜教区報2021年3月号に掲載された文書の問題性が同委員会に寄せられ、主教会より「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」の再確認について、というメッセージが6月10日付で出されることとなり、各教会信徒・教役者のみなさまに届けられました。

(以下、主教会文書)

「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」
 <日本聖公会第64（定期）総会決議>の再確認について

キリストにあつて親愛なる兄弟姉妹に平和の挨拶を送ります。

横浜教区教区報2021年3月号に、「子なる神・キリストの受肉が虚偽であるなら、私たちの救いもありません。神が創造して祝福された男と女という命の秩序を否定することはできません。男の体への託身であり、司祭は、会衆の代表であると同時にキリストの生けるアイコンであり、男の体が担わなければなりません。そうでなければ、キリスト信仰が脱肉の偽信仰となり、思想に過ぎなくなります」という文章が掲載されましたが、日本聖公会主教会としては、このような考えに同意するものではありません。

2018年の日本聖公会第64（定期）総会で決議された、「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」においては、「日本聖公会は、日本聖公会祈祷書によって聖職按手を受領した者の聖職位は有効性を保持していることを認識する」ことを原則とし、「すべての聖職と信徒は、その人の性に関わらず、それぞれのつとめに応じて教会の働きに参与する。誰もその人の性によって排除されたり、嫌がらせを受けたり、差別されたりすることがあってはならない」こと、また、「すべての聖職と信徒は、女性の司祭按手についての立場の違いを越えて、協働者として対話をしつつ、協力しあう」ことを確認しています。

これらの点を含め、「日本聖公会における女性の司祭按手に関するガイドライン」の内容につきまして、あらためて各教区の教役者、信徒におかれては十分に認識をご共有いただくようお願いいたします。

2021年6月10日 日本聖公会主教会

世界教会協議会 (WCC) 中央委員会・報告



主教 アシジのフランシス 西原廉太
 (WCC 中央委員・エキュメニズム委員会委員長)

第65回WCC中央委員会が2021年6月23日～29日まで、WCC史上初めて「オンライン」で開催されました。Zoomシステムを利用し、オンライン対応のため一部規定を修正した上で、無事に出席要件者数（中央委員155名中、124名出席）を満たして成立しました。日本時間では基本的に毎夜21:00-0:00という時間帯となりました。今回の中央委員会の主要目的は、来年、2022年9月に延期されたドイツ、カールスルーエで予定され

ている第11回WCC総会の準備にありました。

アグネス・アブオム (Dr Agnes Abuom) WCC中央委員会議長は、「世界の教会のレジリエンス (回復力・復元力) 一苦悩させられたが、決して壊されなかった— "Troubled but Not Destroyed"」と題して、以下のように開会メッセージを始められました。

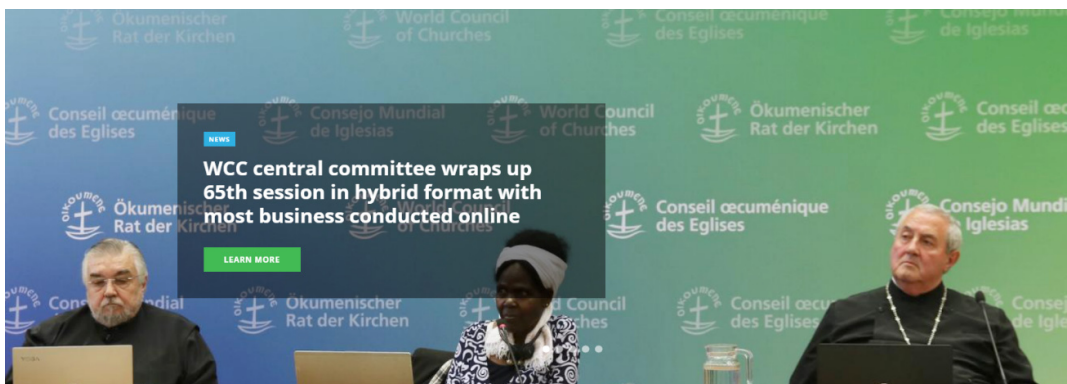
「教会は、COVID-19パンデミックや関連する重要な諸課題に悩まされているのは確かなのです

が、牧師や教会員の命を失うという高い代償を払いながらも、壊されてはいないのです。むしろ教会は、ほとんど、あるいはまったく支援を受けずとも、大きな変化に対応する高い適応力があることを示しています。第一に、地方の教会は、最も弱い立場にある群れを定め、食料の配給に時間をかけて取り組みました。また、別の地方では、周縁に置かれた人々を守るために、食べ物それぞれの戸口まで届けられました。第二に、多くの牧師たちが最前線で牧会的奉仕をささげ、その内の少なくない方々が亡くなり、また今も、死線の内にあることです。とりわけ、農村地域の牧師たちは、ロックダウン中であっても、遺族などの弱い立場にある家族を訪問し、寄り添う牧会的訪問を続けました。実際、これらの牧師たちの中には、Zoomやインターネットのような仕組みにアクセスできない人も少なくありません。第三は、若者たちが、聖職者や教会職員がテクノロジーを自分のミニストリーに使うのを助けたり、牧会の仕事に同行したりする上で、極めて重要な役割を果たしていることです。第四は、教会の働き手がテクノロジーを活用したことにより、これまで耳にすることができなかった人々への教会のアプローチが拡大したことです。彼らや教会の草の根の声が、教会指導者や意思決定者の会議室に届くことになりました。教会がそのサイロの外側で働くことができ、教会の人道的、霊的な支援が国境を越えて行われたことは注目に値するものです」

またさらに、アブオム議長は、「キリストの愛が和解と一致へと世界を動かす」(“*Christ's love moves the world to reconciliation and unity*”)をテーマに掲げる来る第11回総会は、諸教会が、愛と解放のメッセージを宣言する良い機会となると強調されました。カールスルーエ総会をホストされるドイツの諸教会からも準備状況の報告があり、中央委員会も大きな期待を表明しました。

今回の中央委員会における重要案件の一つが、WCC本部があるエキュメニカル・センターを中核とするWCC所有地に、現在、計画されている「グリーン・ヴィレッジ」(Green Village)のプロジェクト進捗状況の共有と承認でした。WCCの本部機能はもちろん維持されますが、その他の土地には、環境に十分配慮した複数のコンプレックス・ビルディングを建築、外部に賃貸し、そのリース料を逼迫するWCCの運営費の原資とする構想です。各棟の名称は気候変動等に関連するもので、その内の一棟は“KYOTO”と名づけられました。

8つの各地域別会議もオンラインで招集されましたが、その内、太平洋地域(Pacific Region)会議の報告の中で、日本政府の福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出に対する厳しい批判があったことが報告されました。オンライン会議のため質疑時間はほとんどありませんでしたが、私は、チャットを通じて、参加者全員に日韓教会(NCK-NCCJ)共同声明文「福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出計画の撤回を



強く要請します」を紹介すると同時に、太平洋地域会議からの教会の声を、日本の諸教会にも伝えることを約束しました。

次回の中央委員会は、来年、2022年2月8日から16日まで、スイス・ジュネーブのエキュメニカル・センターで、対面で実施されることとなりました。ただし、それまでにワクチン配布の世界的不平等が解消され、参加者全員が適切にワクチン接種を受けていることと、正当にビザが発

給されることが前提条件となります。次回中央委員会の主要課題は、第11回総会についての最終確認と、延期となっているWCC次期総幹事の選出です。



世界の聖公会の動向

- ☆アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会の首座主教が逝去
- ☆アングリカン・コミュニオンに新たな3人の首座主教が就任

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

○アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会の首座主教が逝去

ポリネシア教区は7月2日(金)、アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会の3名の首座主教のうちの1人、フェレイミ・カマ大主教が逝去されたことを発表した。享年66歳だった。

フェレイミ大主教は、2019年3月にポリネシア教区主教に按手された時から首座主教を務めていた。アオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会で首座主教を務めた初めてのフィジー人でもある。また気候正義の提唱や自然災害への備えについて、強力なリーダーシップを発揮していた。

アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会は、教会内における3つの文化的背景(パーケハー、マオリ、ポリネシア)を反映し、ユニークな形で3者の権威を保持している。

フェレイミ大主教は、メソジスト派の学校教師としてキャリアをスタートさせた後、1987年の第一次フィジー・クーデターの際に聖公会に移籍した。1990年に相次いで執事と司祭に按手され、

さらにスヴァ(Suva)のホーリー・トリニティ大聖堂の首席司祭を務めた後、主教に任命された。

カンタベリー大主教のジャスティン・ウェルビー師も、フェレイミ大主教の逝去に対し「アングリカン・コミュニオン全体にとって大きな衝撃」として、弔意を示した。

○アングリカン・コミュニオンに新たな3人の首座主教が就任

アングリカン・コミュニオンにおいて、2人の新しい首座主教が任命され、8月にはもう一人の就任が予定されている。サミ・ファウジ大主教は、ムニール・アニス博士の後任として、アレクサンドリア聖公会大主教および同管区の首座主教に任命された。パキスタン合同教会では、ハンフリー・ピーターズ主教の後任として、アザド・マーシャル主教が総会議長に選出された。また、ブルンディでは、シクベルト・マクミ主教が8月にマーティン・ブレイズ・ニャボホ大主教の後任として首座主教に就任する。

サミ・ファウジ大主教はカイロのオール・セイ

ソツ大聖堂で挨拶された。その際礼拝で次のように述べた「教会は、貧しい人々、困窮した人々、疎外された人々、そして特に聖公会支援機関を通じて難民の保護に関わる人びとに対する支援を継続します。」

パキスタン統一教会は、先日行なわれた総会において、アザド・マーシャル主教を議長兼首席主教に全会一致で選出した。全8教区の主教と総会議員が出席した。ライウィンド教区の主教であるマーシャル師は、ペシャワールのハンフリー・ピーターズ主教の後を継いで議長となる。

選挙後、アザド大主教は、「教会は、コミュニティを構築し、信徒の福祉と安全の確保において重要な役割を担っています。パキスタンのキリスト教徒は深刻な課題に直面しており、教会の指導者が政府やその他の関係者と協力して、これらの問題に対する具体的な解決策を見出すことが重要です」と述べた。

さらにエルサレムおよび中東聖公会におけるイラン教区主教としての12年間の在任中には、宗教間の調和と地域の平和を促進するために努力してきたと述べた。

また、ブルンディ聖公会では、5月に新首席主教を選出する会議が行なわれた。ブイエ教区のシクベルト・マクミ主教が、マカンバ教区のマーティン・ブレイズ・ニャボホ大主教の後任として、8月21日に同管区の第5代首席主教に就任する。

シクベルト主教は、ビショップ・バーナム神学大学で教鞭をとり、ブイエのオール・セインツ大聖堂で司牧するなど、幅広い経験を持っている。また、教区の総主事を務め、ブルンディの少年少女団体の調整と発展にも携わってきた。2005年に第3代ブイエ教区主教に就任している。

オンライン研修会・報告

「教会とセクシュアル・マイノリティ これだけは知ってほしい〜」

—喜び人と共に喜び、泣く人と共に泣く共同体であるために—

管区女性デスク：司祭 セシリア 大岡左代子

7月19日(月)19時～、講師に、寺田留架さん(約束の虹ミニストリー代表)と川口弾さん(研究者/神学・クィア理論)をお迎えして、オンライン研修会「教会とセクシュアル・マイノリティこれだけは知ってほしい!」が開かれました。当初は人権問題担当者やハラスメント防止・対策に関わる方を対象に、と考えていましたが、感染症拡大の副産物ともいえるオンライン会議普及の効果で、遠くはニューヨークから、また他教派の方々も含め90名を超える参加者と共に豊かな学びの時が与えられたことを感謝します。

第1部では、講師のお二人のパーソナルストー

リーが語られました。短い時間では語りきれない物語であることを想像するのですが、そのプロセスの中で出会った人々や神様との出会い直しが、今のお二人を造り、その出会いの旅が今も続いている、信仰は常に進行形であり、進化していくものであることを深く感じさせられました。

第2部では、吉谷かおるさん(女性デスク)と3人でのトークセッションの中で、セクシュアル・マイノリティの人が、牧師に自分のセクシュアリティについて打ち明けた時に、

- 礼拝出席や献金は今まで通りしても良いが、賛美チームなど<聖なる奉仕>には参加して

はいけない。

- セクシュアリティを治すためのプログラムを受けなさい。
- うちの教会では受け入れることは難しい、他の教会を探しなさい。

このようなことを言われた例が挙げられました。このような発言の背景には、根本的にセクシュアリティの多様性についての知識に欠け、性別には男と女しかない、また人間は異性に性的指向が向くものという固定観念があること、だから、それにあてはまらない場合は「治るべき」対象とされてしまう現実があること、また聖書にある人間創造の物語からも「男と女に造られた」「互いにひかれあうもの」という規範があり、その規範から外れるものは居ないものとされ、排除されてしまうということが起きるのだ、と指摘されました。

セクシュアル・マイノリティの人に「治せ」とか「変えろ」というのは、鳥だけけれど空を飛ばないペンギンに「空を飛ばせ」ということと同じであるという例は非常に印象的で、それはその人の存在そのもの、本来のありようを否定することと同様であることをしっかり認識しなければなりません。

ん。他にも、キリスト教のもつ結婚観、聖書理解についてもたくさんの示唆を与えられましたが、紙面の都合上ここで紹介できないのが残念です。

教会というところでは『どなたでもお越しく下さい』と看板が掲げられていながら、本当に誰でも歓迎され安心できる場所になっているでしょうか？見えないトゲがあり、誰かを傷つけていることがあるのではないのでしょうか？

わたしたちが勝手に作りだしている規範や思い込みによって排除されている人がいるという現実を受け止めて『どなたでもお越しく下さい』という看板が実効あるものとなるよう、これからも共に学び新たにされていきたいと思います。



吉谷かおるさん・寺田留架さん・川口弾さん

新型コロナウイルス (COVID-19) に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝(公禱)を行なうが、各教会で判断

- ・各教会 / 礼拝(公禱)の休止なし。
- ・教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行わない、誰でも参加可能。
- ・礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 礼拝(公禱)の再開または休止

- ・主日礼拝等は、再開しているが、地域によって動きの違いはある。引き続き十分な感染対策を取る。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

- ・各県の警戒レベルを注視して対処すること。
- ・増えつつある地域は特に厳戒対応とする(第8信遵守のこと)。

北関東教区 礼拝(公禱)の再開または休止

- ・各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝(公禱)再開または再休止

- ・礼拝について、2021/6/24の主教教書で教区内の公禱一斉休止を解除。7/12緊急事態宣言再発令後、公禱の継続・再開・休止は各教会・現場の判断に委ねる。7/23現在、34

教会（含礼拝堂）中 11 教会で公禱を継続、23 教会で休止。

- ・葬儀および礼拝堂の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの教会・礼拝堂の状況にあわせて、実施可能。
- ・インターネットによる礼拝等の配信をおこなっている教会がある。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開または公開 休止

- ・「礼拝指針」の徹底。
- ・「新型コロナウイルス感染症発生時の教会対応ガイドライン」の順守。
- ・在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- ・東京都に隣接する神奈川県および千葉県に在住で健康に不安のある人は公共交通機関を利用しての来教を控える。
- ・引き続き、ウイルス感染再拡大への対応として、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

中部教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。

京都教区 各教会で判断

- ・各教会で判断。緊急事態宣言が解除され、

主日礼拝再開の教会もあるが、引き続き感染防止策を継続して行なう。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- ・原則として6月27日の主日より礼拝を再開。
- ・各教会のおかれている地域・関係諸施設とのかわりなどを考慮して、各教会・各諸施設が礼拝の公開を休止する判断も支持する。

神戸教区 礼拝（公禱）の再開

- ・教区の自粛基準に基づき、各教会で判断し、自粛の場合は教区主教に報告している。
- ・主日礼拝は聖餐式（一種陪餐または前部）または、み言葉の礼拝を行なっている。
- ・緊急事態宣言が解除された県下の教会では、礼拝を再開している。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

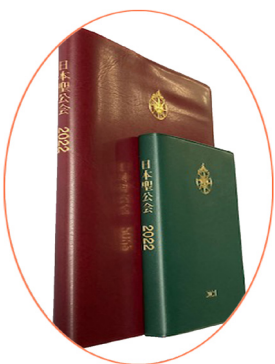
- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の休止

- ・緊急事態宣言発令中の礼拝を休止。8月22日まで

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

(2021年7月30日現在)



☆日本聖公会
管区事務所責任編集

『聖公会手帳』 2022

各教区事務所・教務所の協力のもとに完成！

10月 中旬発行

大判型 2,200円

ポケット版 1,200円

(税込)

ご予約はお早めにお近くの書店まで！

- ✿ 背文字に金箔で「日本聖公会」を入れました。
- ✿ 読者アンケートから利用者の声を誌面に反映。
- ✿ 2022年度 教会暦・日課表を完全収録。
- ✿ 祈りのページを大幅増補。

教会の声 / 読者の声

「教会の声 / 読者の声」欄への寄稿をお待ちします。内容・字数は自由。誌面の整理上、一部改稿することもあります。執筆者名・教会名を明記して郵便またはメールでお送りください。宛先は管区事務所・広報主事。(com-sec.po@nssk.org)

短歌 15 首 「手」

司祭 齊藤昭一 (退職・仙台)

神の御手地の基を据えられて
右の手は天を延べられた

疑いの弟子たちの前に立ち給い
復活のイエス手と足を見せたり

アブラハム火と刃物とを手に持ちて
イサクを薪の上に供えたり

主の光サウロを倒し目が見えず
アナニヤ手をおき目のうろこ落つ

イサクを手をかけたせしに御使は
「子に手を下すな何もしてならぬ」

エペソにて洗礼うけし人々に
パウロ手をおき聖霊降りり

神の杖モーセ手にとりエジプトへ
多くの奇跡エジプトに起こせり

神の御手エジプトの民去らせる日
記念とはして守る除酵祭

去る民をエジプト軍の迫りくる
神の右手は敵打砕かれり

飢えし民不平の声に神の御手
短くはなし「我が業を見よ」

水なくて民の不平にモーセの手
杖で岩たゝき水ほとぼしりぬ

皮膚病者主にひれ伏して願いしに
主は手をふれて清められたり

会堂長の娘の死をきゝて主イエス
手を取り「タリタクム」と起こせり

主イエス願いを聞いて盲人の
目に唾をつけ両手ふれたり

「子供らをわたしの処に来させなさい」
主は手をおきて祝福されり

小さなものの声は神様からのメッセージ

第30回

お話を聴く会

「証し」と「交わり」のひととき

多くの障がい者を生み出している、
中東・パレスチナ問題について

中東、特にパレスチナでは長年の紛争により障がいを受けた方がたくさんいらっしゃいます。今回はパレスチナで多くの働きをされている岩浅紀久さんにその状況、背景などについてお話をして頂きます。

岩浅紀久氏
エルサレム・嘆きの壁にて

お話をしてくださる方：岩浅紀久氏

日時：2021年9月4日(土) 13:00～14:30

開催方法：Zoomによるオンライン 参加費：無料 手話通訳・要約筆記付き

申し込み方法：お名前、所属を記載の上、参加するeメールで下記まで送信して下さい。

byukai316@gmail.com (8月28日(土)までにお申し込みください。)

ZoomのURLは受付後にメール返信でお知らせいたします

移動は防弾車で
り(パレスチナJICAプロジェクト)

岩浅紀久(いわあさとしひさ)氏のプロフィール

ITエンジニアリング研究所代表取締役

NPO法人ビジネス・キャリア協会理事

起業経験のあるシニアが、若者の起業を支援するNPO

JICA 専門員 パレスチナ中小企業支援プロジェクト担当

ジェリコ(エルコ)に工業団地を設計、建設中

大学関係：東京大学(院)東洋文化研究所/パレスチナ研究会員

京都大学(院)地域研究会研究員

教会関係：日本聖公会東京聖マリア教会

東京教区聖職養成委員

主催/日本聖公会東京教区「障がい者」関連活動連絡会/担当 鶴岡義機(☎ FAX:03-6205-5531 eメール:上記協力/サイランランゲージ・こひつてくらぶ

青年活動のための日

2021年8月1日

わたしたちは、神の御前で、あなたがたのことで喜びにあふれています。
この大きな喜びに対して、どのような感謝を神にささげたらよいでしょうか。
どうか、主があなたがたを、
お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、
わたしたちがあなたがたを愛しているように。

(テサロニケの信徒への手紙一 3章9節・12節)

日本聖公会

□日本聖公会『管区事務所だより』購読料改訂のお知らせ

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面で的確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の年間購読料について、通信費・紙代・インク代の値上がりなど、などさまざまな事由のため、2020年より購読料改訂を実施させていただくこととなりました。年間の購読料金は、2020年2月以降のお申込みから、個人

1,200円、1か所につき2部以上ご希望の場合は1部1,000円といたします。ご不明な点等ございましたら、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。余儀ない事情をご理解いただき、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

管区事務所 電話：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。